

第4回里山フェスティバル「里山シンポジウム」

主催者（東金市）代表挨拶

東金市市長 志賀直温



皆さんこんにちは。ただ今ご紹介頂戴いたしました、地元東金市市長の志賀と申します。今年は第4回の里山シンポジウムに大勢の方々にご参加頂きまして、地元市長として、この地にいらして下さったことを心より歓迎を申し上げる次第でございます。また今回は東金市もこの会の一員として参画をさせて頂いておりましたが、この里山シンポジウムは、平成15年5月に千葉県で里山条例をその趣旨を各地域に根付かせることを目的に開催されてきているということでございます。今回私どももこの城西国際大学をお借りして、今回開催できるということを中心から皆様にも御礼を申し上げ、ありがたいことだと思っております。

東金市の紹介を少しさせていただきます。地形的には山間部と九十九里平野この両方がある地域です。市全体が里山という認識をしています。何故かという、山間部における目に見える形での、里、山、だけではなく、それによって供給される水、燃料、私どもも30年代は山からかやを拾ってきてそれを燃料にしたという経過があるのです。そういった中で昨今では自然環境の破壊というのがかなり深刻化してきている中で、今回のサブテーマである「なりわい」はとても大切なキーワードであると認識しております。それは、地域における産業振興、地域産業を活性化させることによってそれが「なりわい」となり、その結果自然環境の保全につながっていくということも考えられると思っております。東金市でも現在の基本計画の中では、産業振興を重点政策の1つとして取り上げております。その一環として、いかにこの地域産業を確立できるかという問題に通ずる中で、本日シンポジウムの講師もされております小松先生にも市としてお骨折りをいただきまして、地域の財産である水田や畑を都市との交流の中で使うことはできないかということで、数年前から田んぼの学校という取り組みをしています。これは谷津田、ここはお米がおいしい田んぼなのですが、ここに都会から大勢の方々に来て頂いて、田植えから始まって管理収穫までをするという流れを地域でやっていただくことをしています。また、市民農園の畑でいろんな作物を自ら作っていただく取り組みをしています。これは都市と農村との交流を目指しておりますけれども、これを発展させた形での「なりわい」というような可能性にも大変期待していきたいと思っております。本市の位置する地域というのは、ご承知のように山武杉という木材が有名な木材としてございます。最近では先ほど知事さんからもお話がありましたように、荒れた山林、森林というのが見られるようになってきたのも現状で、大変残念に思っております。この件についても自然と一体となった人々の生産活動であるなりわいが成り立ってくることによって、結果的にかつてのように管理された山林の姿が戻ってくるということも期待したいと思っております。伺いますと昨今、輸入材ではなくて国産材が見直され、値段的にも見直されてきている部分があるということですので、それも期待したいと思っております。また、本日のパネリストでもあります、石井さん、稗田さん、地域の方々による、地産地消の取り組みも進められてきておりまして、今後の展開にも期待したいと思っております。本日はまた、全国展開をされております、「美しい森林（もり）づくり推進国民運動」の一環であります全国キャラバンということで、農林水産大臣の福井政務官にもお越しいただくということですので、会場にお集まりの皆様と一緒に考えるいい機会になるのだらうと思っております。講師であります小松先生は、各方面に明るい方でありまして、このあとのパネルディスカッションは堂本知事さんもパネリストとしてご参加されるということで、有意義なパネルディスカッションになるのではないかと期待しております。

結びにあたりまして、本シンポジウムの開催にあたりまして、こういった素晴らしい水田記念ホールという施設の提供をいただきました、水田理事長先生を初めとして関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、このシンポジウムの成功を心からご祈念申し上げまして、開催地の市長としてのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。